

ホロホロ山(1322.2m)

令和3年3月6日(土)

CL 藤木(晴)

スキー

西田、相馬、澤田、水江、宇田、太田、門馬、八重樫、渡辺

スノーシュー

藤木(た)、津川、森永、嶋原 以上14名

山行工程

8:30 伊達-大滝工芸館発～10:20 825m ポコ

～10:50 展望台～11:05 標高 965m 付近撤退

12:15 スノーシュー休憩点合流昼食

13:10 伊達-大滝工芸館着

行程 登り2時間35分 下り1時間30分

7時、伊達の道の駅に集合。車を走らせる。晴れているが遠くの山並みは雲に覆われている。7時50分、登山口に着く。工芸館フェンス乗り越え出発。

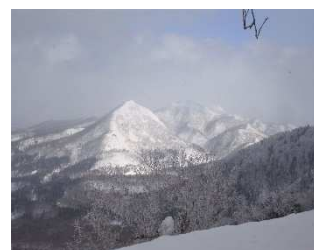


前日は暖かくプラス気温、今日はマイナス気温。序盤からスキー跡がくっきり崩れず残るクラフト状の雪面、寸分の狂いもなく後に続く後続。みんな何を思って歩いているのだろうか。林の中で景色が見えない、上は晴れている、雪質は、いろいろ考えてしまう。雪がぼんぼり上に積もっている立木に目鼻を書き遊ぶ仲間、上手。



スノーシュー組と離れ、黙々と山頂を目指しスキーを運ぶ。825m ポコを過ぎ展望台。左手に太陽

に照らされ雪をかぶった白老三山が目に飛び込む。素晴らしい。誰かがつぶやく「あの斜面を滑ったら気持ちいいだろうなあ」見える斜面は到底滑ることができない急こう配、無理。



標高 965m 付近。これから扇状の緩やかな斜面が続くはず。ホロホロ山山頂は雲の中。山頂からの滑降は天候も雪質も望めないことから無理せず下山することになった。



シールを外し滑降、案の定、表面はクラフト、中は湿った雪。ターンが難しい？慣れるしかない。久しぶりの山行で会員の滑降を見てみると自分ではわからないと思うが数段上達している。合流したスノーシュー組は昼食が終わり出発。同じ場所でスキー組間隔をあけ同じほうを向いて昼食(コロナ対策)。早々にあとの滑りを楽しみ下山(皆さんスキー楽しみました?)。リーダーはじめ会員の皆様、楽しい山行でした。ありがとうございました。

記 渡邊

